

カンボジアの有配偶女性世帯主世帯 Cambodian Households Headed by Married Women

鈴木 春子

Abstract: As of 2008, many Cambodian households were headed by married women living without their husbands. Such cases, however, have hitherto not been studied extensively. This paper examines the characteristics of Cambodian households headed by married women, reanalysing the General Population Census of Cambodia 2008 (GPCC 2008).

In 2008, approximately 720,000 households in Cambodia were headed by women (25.6% of the total number of households). Further, 350,000 households were headed by a married woman, and among these households, 197,000 heads were living without their husbands. This number exceeds that of households headed by men without living with their wives by 150,000. Single-mother households accounted for a large number of households headed by a married woman not living with her spouse. A factor that is partially responsible for this phenomenon is the imbalance between the number of married women and that of married men (91 married men per 100 married women). The definition of 'married' in GPCC 2008 includes a de facto marriage. Thus, there may be many men having a second family. Households headed by married women not living with their husbands might be prone to economic vulnerability. Hence, it is necessary to verify their poverty risk.

キーワード：Cambodia（カンボジア）、Female-headed Household（女性世帯主世帯）、Married Women（有配偶女性）

1. はじめに

カンボジアの女性世帯主世帯の貧困状況について、世界銀行やカンボジア政府の計画省は、消費生活から金銭的に貧困を捉えるとカンボジアの女性世帯主世帯は男性世帯主世帯よりも貧困だとはいえないとする調査報告を出している（Ministry of Planning 1999；World Bank 2006 など）。2008年に実施されたカンボジアの人口センサス（日本の国勢調査に相当）の分析報告書（National Institute of Statistics（NIS）2010）によればカンボジア女性が男性に比べて低賃金低所得の仕事に就いていることは明らかなのに、貧困

リスクが高いとはいえないのは何故なのだろうか。世帯構成や、世帯構成員の働き方が貧困リスクを軽減しているのだろうか。世界銀行や政府の貧困報告はこうした疑問に答えてくれない。

また、小地域の質的調査から若い子どもがいる寡婦世帯が貧困に対して脆弱であると指摘する報告（ADB 2001）もなされているが、世界銀行や政府の貧困報告には、若い子どもがいる寡婦世帯についての言及はない。金銭的な貧困調査と非金銭的な貧困調査は必ずしも一致した知見を提示していない。

長期に渡ったカンボジア国内紛争は貧困研究の展開にも影響を及ぼしている。1970年代から1980年代に国際労働機関（ILO）や世界銀行が貧困問題に取り組み始めた頃、カンボジアは混乱の最中にあった。世界銀行の『世界開発報告 1990年版』が貧困を取りあげ、1990年代に途上国の貧困問題に関心が高まって1993年にはカンボジアでも家計調査を含む社会経済調査（Cambodia Socio-Economic Survey：CSES）が実施されたが、国内はまだ不安定で調査に入れない地域もあった。ようやく国内が安定した1990年代後半以降、小地域の貧困研究が増えているが、得られた知見を相互に検証する作業はまだ不十分である。個別研究で貧困にたいして脆弱な集団が指摘されても、他の地域ではどの程度の規模でその集団が存在するのかも分かっていない。また、標本調査であるCSESを使用している世界銀行や政府の貧困報告は、標本数の制約を受けて母数の小さな集団の分析が十分なされていない可能性が否定できない。

カンボジアの2008年人口センサスは個票データが提供されている⁽¹⁾ので、筆者はこの悉皆調査の再分析によって小規模調査で得られた知見を全国規模で検証してみたいと考えている。手始めに世帯構成を再分析する中で、有配偶女性世帯主の半数以上は配偶者と同居していないことが明らかになった。筆者が知る限り、これまで提示されたことのない統計値である。目標としている再分析はまだ途中の段階にあるが、ここで一度、若干の考察とともに有配偶女性世帯主についてのこれまでの分析結果を報告しておきたい。

2. 人口センサスにおける世帯と世帯主の定義

分析結果の検討に入る前に、カンボジアの人口センサスが世帯と世帯主をどのように定義しているのかをみておきたい。

(1) 世帯の定義

カンボジアの2008年人口センサスでは世帯を次のように定義している。

「通常同居しており、仕事の都合で不可能にならない限り共通の台所で作った食事をとる人々の集団」

ここには、血縁でつながった世帯、血縁関係のない人で構成されている世帯、あるいは両者が入り混じった世帯が含まれる。血縁関係のない世帯の例として挙げられているのは下宿屋、居住型ホテル、拘置所などで、これらは施設等の世帯と呼ばれる。調理人などの

表1 本稿で使用する世帯類型

世帯全体 (2,841,897世帯)	センサスの世帯分類	同居人数	世帯構成	子の年齢	分析
	普通世帯 (2,817,637世帯)	2人以上世帯	単独世帯		
父/母とその子のみの世帯					
子が18歳未満のみ (18歳未満は未成年者)					
子が18歳以上を含む(世帯主が子の場合を含む)					
			その他の2人以上世帯		対象外世帯
施設生活者		(寄宿舎、ホテル、刑務所など)			
ホームレス					
航行船舶乗船者 短期滞在者		(係留船舶で生活している場合は普通世帯として扱う)			

家事使用人が、ある家族の住居に住み込みで働き、食事もそこでとっている場合は、血縁関係にある者となない者が入り混じって1つの世帯を構成していることになる。

本稿の分析範囲は人口センサスの世帯分類のうち「普通世帯」のみで、世帯総数の99.15%、人口総数の98.4%に相当する。分析に使用した世帯類型は表1に示した。

(2) 世帯主の定義

日本ではさまざまな行政手続きなどで、住民基本台帳に記載された「世帯主」が必要になることもあって「世帯主」の概念は広く浸透しているが、地方行政の体制が確立途上にあるカンボジアでは、世帯形成、住民の転出入、出生死亡などを行政が十分把握できていない。「世帯主」という立場の存在を欠いていても、日常生活は成り立って行く。こうした状況下で、カンボジアでは「世帯主」という概念は一般的なものとして広く浸透してはいないようである。

カンボジアの人口センサス実施時の「世帯主」の定義は「世帯内で世帯主として認められている人」である。その人は「一般に、世帯運営の主たる責任を担う人」、「世帯のための意志決定を行う人」で、「世帯内の年長者とは限らない」。人口センサス実施時の調査員向け手引き書(NIS, 2007)は、調査対象世帯に定まった「世帯主」がいない場合は、定義に照らして調査時に世帯主を特定するよう、調査員に求めている。

カンボジアの人口センサスは世帯主年齢を10歳以上として集計されていて、本稿で使用しているすべての世帯類型に18歳未満の世帯主がいる。

3. カンボジアの世帯概要

カンボジアにはおよそ281.7万の普通世帯があって1つの世帯に平均4.68人が暮らしている。世帯主の平均年齢は43.9歳で、生産年齢(15-64歳)人口1人あたりの従属人口は0.62人である(表2)。

4世帯に1世帯は世帯主が女性で、男性世帯主世帯にくらべて世帯主の平均年齢は5歳高い47.4歳、平均世帯規模はおよそ1人少ない3.9人である。

人口センサス実施時に世帯主の8割以上は配偶者がいると回答しているが、そのうち

同一世帯内に配偶者が暮らしていない世帯が全体で 24.7 万世帯 (8.8%) に上っていた。このため、本稿では有配偶者については配偶者が同居している世帯と同居していない世帯を分けて集計した。一方、人口センサスでは別項目だった「離婚 (divorced)」と「離別 (separated)」は、一括して「離別」と表記して、婚姻状況を表 2 に記載したような 5 つの区分で扱っている。

婚姻状況別にみると、配偶者非同居世帯の世帯主の平均年齢は離別世帯と同じ 47.0 歳で配偶者が同居している世帯より 5 歳高く、生産年齢人口 1 人あたりの従属人口は 0.66 人で配偶者同居世帯よりも 0.03 人多かった。0.66 人は世帯主の婚姻状況別にみたときもっとも大きい値である。

カンボジアの世帯を世帯類型別にみると単独世帯は少ない。同居世帯員はいないはずの単独世帯で従属人口が 0.39 人なのは、世帯主自身に年少者もしくは高齢者が相当数含まれていることを示している。カンボジアの人口センサスで世帯主は 10 歳以上となっていること、世帯主の平均年齢が高いことを考慮すると、実際は、そのほとんどが高齢者とみて良い。

「父/母とその子のみ」の世帯は単独世帯の 3 倍の多さである。同居している子どもが 18 歳未満のみの世帯は世帯主の平均年齢が 38.0 歳と若い。世帯規模は 3.09 人で「2 人以上世帯」の中でもっとも小さいが、生産年齢人口 1 人あたりの従属人口は 1.35 人で群を抜く高さである。高い貧困リスクにさらされている世帯も多いだろう。

地域別にみると、8 割を超える世帯は農村部に暮らしていて、残りの 2 割弱の世帯は

表2 カンボジアの世帯概要 カンボジア 2008年

世帯主の性・婚姻状況 世帯類型・地域	世帯数と割合		世帯主の 平均年齢	平均 世帯規模	生産年齢 1 人 あたり従属人口*
	世帯数	割合 (%)			
世帯全体	2,817,637	100.0	43.9	4.68	0.62
世帯主の性					
女性	721,119	25.6	47.4	3.90	0.61
男性	2,096,518	74.4	42.7	4.95	0.63
世帯主の婚姻状況					
未婚	91,684	3.3	31.4	2.72	0.31
有配偶同居	2,123,159	75.4	42.4	5.05	0.63
有配偶非同居	247,106	8.8	47.0	3.75	0.66
死別	258,376	9.2	57.3	3.71	0.57
離別	97,312	3.5	47.0	3.42	0.58
世帯類型					
単独世帯	99,786	3.5	49.7	1.00	0.39
2人以上世帯全体	2,717,851	96.5	43.7	4.81	0.62
父/母とその子のみ世帯	292,594	10.4	46.9	3.32	0.58
子<18歳のみの世帯	132,683	4.7	38.0	3.09	1.35
子≥18歳を含む世帯	159,911	5.7	54.3	3.52	0.28
その他の2人以上世帯	2,425,257	86.1	43.3	4.99	0.63
地域					
プノンベン	250,597	8.9	44.8	5.01	0.36
その他の都市部	255,982	9.1	44.4	4.83	0.50
農村部	2,311,058	82.0	43.8	4.63	0.68

*) 生産年齢人口 1 人当たりの従属人口 = (0-14歳人口 + 65歳以上人口) / (15-64歳人口)
General Population Census of Cambodia 2008 の普通世帯について筆者が再集計したもの

「プノンペン (Phnom Penh)」と「その他の都市部」にほぼ同じくらいの割合で暮らしている⁽²⁾。都市化が進んだ地域の方が世帯の平均規模は大きく、生産年齢人口1人あたりの従属人口は小さい。この傾向は、世帯主が男性であっても女性であっても同じように観察できる(表3)。世帯類型別にみると平均世帯規模がもっとも大きいのは「その他2人以上世帯」だが、都市化が進んだ地域の「その他2人以上世帯」ほど「その他親族」や「親族外」の世帯員が多い(表4の地域分布)。仕事を求めて農村部から都市部にできた人々が親族世帯を頼って同居しているためである。

4. 女性世帯主世帯の概要

カンボジアの普通世帯281.7万世帯のうち女性が世帯主の世帯は72.1万世帯で、全体の25.6%を占めていた(表2)。カンボジアには結婚した若夫婦が妻の親の家に同居して暮らし始める妻方同居の慣行があったことが多くの文献で指摘されており、この慣行は農村部を中心に今もみることができるといえる(例えば、デルヴェール1996;高橋2001)。多くの場合、婚姻数年後には、若夫婦は妻の実家近くに新居を建てて独立する。農村における若夫婦の経済基盤は双方の親から分与される農地である(天川2001;矢倉2008)。結婚後の女性は世帯の資産を管理し、世帯内の意志決定に重要な役割を果たすが、地域や意志決定など公的な場への参加は限定的だといえる(FitzGerald2007)。人口センサス結果によれば4世帯のうち3世帯は男性が世帯主で、そのほとんど(93.9%)には配偶者が同居している(表3)。妻方同居で新しい生活を始めた場合も、親世帯から独立した後

表3 世帯主の性別・世帯概要 カンボジア 2008年

世帯主の婚姻状況 世帯類型 地域	女性世帯主世帯					男性世帯主世帯					女性世帯主 世帯割合 (%)
	世帯数と割合		世帯主の 平均年齢	平均 世帯規模	生産年齢 1人あたり 従属人口*	世帯数と割合		世帯主の 平均年齢	平均 世帯規模	生産年齢 1人あたり 従属人口*	
	世帯数	割合(%)				世帯数	割合(%)				
世帯全体	721,119	100.0	47.4	3.90	0.61	2,096,518	100.0	42.7	4.95	0.63	25.6
世帯主の婚姻状況											
未婚	56,002	7.8	34.9	2.74	0.34	35,682	1.7	25.9	2.68	0.26	61.1
有配偶同居	154,994	21.5	39.8	4.98	0.65	1,968,165	93.9	42.6	5.05	0.63	7.3
有配偶非同居	197,762	27.4	46.5	3.80	0.71	49,344	2.4	49.0	3.55	0.50	80.0
死別	228,131	31.6	56.8	3.69	0.56	30,245	1.4	60.7	3.80	0.60	88.3
離別	84,230	11.7	46.6	3.50	0.59	13,082	0.6	49.7	2.92	0.51	86.6
世帯類型											
単独世帯	69,045	9.6	53.5	1.00	0.47	30,741	1.5	40.9	1.00	0.25	69.2
2人以上世帯全体	652,074	90.4	46.8	4.21	0.61	2,065,777	98.5	42.8	5.00	0.63	24.0
父/母とその子のみの世帯	251,569	34.9	46.3	3.31	0.59	41,025	2.0	50.6	3.39	0.55	86.0
子<18歳のみの世帯	117,225	16.3	37.6	3.10	1.36	15,458	0.7	40.8	3.01	1.27	88.3
子≥18歳を含む世帯	134,344	18.6	53.8	3.50	0.27	25,567	1.2	56.5	3.63	0.33	84.0
その他の2人以上世帯	400,505	55.5	47.1	4.77	0.62	2,024,752	96.6	42.6	5.04	0.63	16.5
地域											
プノンペン	71,327	9.9	46.8	4.55	0.33	179,270	8.6	44.0	5.01	0.37	28.5
その他の都市部	65,839	9.1	47.4	4.24	0.49	190,143	9.1	43.3	4.83	0.51	25.7
農村部	583,953	81.0	47.5	3.78	0.68	1,727,105	82.4	42.5	4.63	0.67	25.3

* 生産年齢人口1人当たりの従属人口 = (0-14歳人口+65歳以上人口) / (15-64歳人口)
General Population Census of Cambodia 2008の普通世帯について筆者が再集計したもの

は男性が世帯を代表することが多いのではないだろうか。

未婚、死別、離別など配偶者のいない女性世帯主は男性世帯主より多く、配偶者のいる女性世帯主より僅かに多い。女性世帯主世帯全体の平均世帯規模が男性世帯主世帯よりも1.05人小さいのは、配偶者のいない世帯主が多いことが大きく影響している。未婚の女性世帯主の平均年齢は未婚の男性世帯主よりも9歳も高く、平均世帯規模は2.74人である(表3)。未婚の女性世帯主のうち単独世帯で暮らしている者は3割に届かず、6割以上は「その他2人以上世帯」に暮らしている(表5)。同居者でもっとも多いのは兄弟姉妹を含む「その他の親族」(1.89人)で、親との同居は4割程度である。カンボジアでは結婚した女性が世帯内で重要な役割を果たしているようだが、早くに母親を亡くすと長姉が母親役割を引きついで、弟や妹の面倒を見ながら自身の結婚や離家を先送りすることも多いようである。また、表には示していないが、「父/母とその子のみの世帯」の中には60歳代や70歳代の世帯主が18歳未満の子のみと暮らしているケースが散見された。高齢者が未成年の養子と暮らしている(佐藤2009)ことを示していると思われる。

女性世帯主には有配偶者も多く、配偶者が同居している場合と同居していない場合を合わせると有配偶割合は48.9%になる。世帯全体に占める女性世帯主の割合(25.6%)は、日本の2010年国勢調査結果(24.0%)と比べて特段多いわけではないが、日本の場合は、女性世帯主に占める有配偶者割合は8.9%である⁽³⁾。有配偶者割合が高いことは、カンボジアの女性世帯主の特徴の1つといえるだろう。有配偶女性世帯主の中では、配偶者が同居していない世帯のほうが同居している世帯よりも多く、女性世帯主世帯の27.4%を占めている。一方、男性で配偶者と同居していない世帯主は、男性世帯主全体の2.0%を占めるにすぎない。女性世帯主は、配偶者が同居していない有配偶世帯、死別世帯、離別世帯の各々で8割以上、未婚世帯でも6割を占め、世帯類型別にみると配偶者のいない「父/母とその子のみの世帯」の8割以上、「単独世帯」の7割程度を占めている。また、単独世帯で暮らす女性世帯主の平均年齢は男性世帯主より12歳高い53.5歳

表4 世帯主の性別「その他2人以上」世帯の世帯構成 カンボジア 2008年

世帯主の婚姻状況 地域	「その他2人以上」女性世帯主世帯					「その他2人以上」男性世帯主世帯				
	世帯数	世帯主との続柄別平均人員(人)				世帯数	世帯主との続柄別平均人員(人)			
		配偶者	親/子/孫	その他親族	親族外		配偶者	親/子/孫	その他親族	親族外
世帯計	400,505	0.39	2.65	0.66	0.07	2,024,752	0.97	2.76	0.27	0.04
世帯主の婚姻状況										
未婚	34,799	-	0.39	1.89	0.27	20,960	-	0.20	1.76	0.71
有配偶同居	154,994	1.00	2.69	0.26	0.03	1,968,165	1.00	2.78	0.24	0.03
有配偶非同居	74,017	-	2.97	0.85	0.09	19,489	-	2.27	1.13	0.56
死別	105,897	-	3.09	0.65	0.04	12,342	-	3.33	0.69	0.08
離別	30,798	-	2.79	0.87	0.07	3,796	-	2.40	1.03	0.20
地域										
プノンベン	50,038	0.25	2.41	1.31	0.30	172,001	0.93	2.56	0.66	0.17
その他都市部	41,563	0.37	2.69	0.84	0.13	182,022	0.96	2.68	0.43	0.10
農村部	308,904	0.41	2.69	0.53	0.02	1,670,729	0.98	2.78	0.21	0.02

General Population Census of Cambodia 2008の普通世帯について筆者が再集計したもの

で単独世帯に高齢女性が多いことを示している (表3)。

5. 有配偶女性世帯主

カンボジアには多くの有配偶女性世帯主がいる。妻方同居の慣行の下で村外出身者と結婚すると、住まいも農地も妻もしくは妻方の親が所有しているところで暮らすことになる (Ebihara 1974)。そうした状況下で、妻が世帯を代表して世帯主として機能することは十分考えられる。また、若夫婦が自分たちのための新居を建てるのが経済的に困難で妻方同居を続けているような場合は、妻が世帯主と目されることもあるのではないだろうか。

結婚していて配偶者が同居している世帯は本稿の世帯類型ではすべて「その他2人以上世帯」に区分されるが、配偶者が同居していない女性世帯主では「その他2人以上世帯」は4割に満たない (表5)。「その他2人以上」の配偶者非同居世帯には配偶者が同居していないにもかかわらず、一緒に暮らしている世帯員の数は配偶者同居世帯とあまりかわらない。配偶者非同居世帯には、配偶者同居世帯よりも「親/子/孫」などの直系親族が0.28人、その他の親族が0.59人多く暮らしており、「親族外」も0.06人多いためである (表4)。配偶者非同居の女性世帯主にとって「その他2人以上世帯」で暮らすことが、貧困リスクを回避もしくは低減する手段となっている可能性がある。

結婚していても配偶者が同居していない女性世帯主の半数以上は「父/母とその子のみ」の世帯で暮らしていて、その中では「子が18歳未満のみ」の世帯の方が「18歳以上の子を含む」世帯よりも多い。「子が18歳未満のみ」の世帯は、カンボジア全体で13.2万世帯あるが、女性世帯主世帯は11.7万世帯とその大半を占めており、さらにその半数

表5 世帯主の性別・婚姻状況別の世帯類型 カンボジア 2008年

世帯主性別	婚姻状況	世帯数					世帯割合 (%)						
		世帯 類型計	単独世帯	父/母とその子のみ		その他 2人以上	世帯 類型計	単独世帯	父/母とその子のみ		その他 2人以上		
				子<18歳 のみ	子≥18歳 あり				子<18歳 のみ	子≥18歳 あり			
男女計	計	2,817,637	99,786	292,594	132,683	159,911	2,425,257	100.0	3.5	10.4	4.7	5.7	86.1
	未婚	91,684	28,363	7,562	3,026	4,536	55,759	100.0	30.9	8.2	3.3	4.9	60.8
	有配偶同居	2,123,159	-	-	-	-	2,123,159	100.0	-	-	-	-	100.0
	有配偶非同居	247,106	24,975	128,625	71,995	56,630	93,506	100.0	10.1	52.1	29.1	22.9	37.8
	死別	258,376	33,400	106,737	30,847	75,890	118,239	100.0	12.9	41.3	11.9	29.4	45.8
	離別	97,312	13,048	49,670	26,815	22,855	34,594	100.0	13.4	51.0	27.6	23.5	35.5
女性	計	721,119	69,045	251,569	117,225	134,344	400,505	100.0	9.6	34.9	16.3	18.6	55.5
	未婚	56,002	15,920	5,283	1,949	3,334	34,799	100.0	28.4	9.4	3.5	6.0	62.1
	有配偶同居	154,994	-	-	-	-	154,994	100.0	-	-	-	-	100.0
	有配偶非同居	197,762	15,017	108,728	63,413	45,315	74,017	100.0	7.6	55.0	32.1	22.9	37.4
	死別	228,131	29,101	93,133	27,458	65,675	105,897	100.0	12.8	40.8	12.0	28.8	46.4
	離別	84,230	9,007	44,425	24,405	20,020	30,798	100.0	10.7	52.7	29.0	23.8	36.6
男性	計	2,096,518	30,741	41,025	15,458	25,567	2,024,752	100.0	1.5	2.0	0.7	1.2	96.6
	未婚	35,682	12,443	2,279	1,077	1,202	20,960	100.0	34.9	6.4	3.0	3.4	58.7
	有配偶同居	1,968,165	-	-	-	-	1,968,165	100.0	-	-	-	-	100.0
	有配偶非同居	49,344	9,958	19,897	8,582	11,315	19,489	100.0	20.2	40.3	17.4	22.9	39.5
	死別	30,245	4,299	13,604	3,389	10,215	12,342	100.0	14.2	45.0	11.2	33.8	40.8
	離別	13,082	4,041	5,245	2,410	2,835	3,796	100.0	30.9	40.1	18.4	21.7	29.0

General Population Census of Cambodia の普通世帯について筆者が再集計したもの

以上（6.3万世帯）を配偶者非同居の有配偶女性世帯が占めている。有配偶非同居の女性世帯主世帯に占める「子が18歳未満のみ」の世帯の割合は32.1%で、およそ3世帯に1世帯である（表5）。有配偶非同居女性世帯主世帯の従属人口が大きい（表3）のは「子が18歳未満のみ」の世帯が多かったためである。

世帯類型の分布を地域別にみると、世帯全体の分布に比べて「父/母とその子のみ」、中でも「子が18歳未満のみ」の世帯は農村部の割合が高く、「その他2人以上世帯」は都市化の進んだ地域の割合が高い。この傾向は世帯全体でみるよりも女性世帯主世帯でさらに明確になり、有配偶非同居の女性世帯主世帯ではなお一層ははっきりと確認できる。表6の下部に示した世帯主の平均年齢、平均世帯規模、従属人口をみると、農村部で配偶者と同居していない女性世帯主の平均年齢は若く、世帯規模は小さいが従属人口は多い。同じ有配偶非同居の女性世帯主世帯でも、農村部と都市部では世帯構成に大きな違いがある。

有配偶女性世帯主世帯に配偶者が同居していなくても、夫が家計に寄与しているのならこれらの世帯の貧困リスクは離死別女性世帯主世帯よりも低いと思われるが、実際はどう

表6 世帯類型と世帯主の婚姻状況の地域分布 カンボジア 2008年

世帯類型 世帯主の婚姻状況	世帯数											
	カンボジア世帯全体				女性世帯主世帯全体				有配偶非同居女性世帯主世帯			
	地域計	プノンベン	その他都市部	農村部	地域計	プノンベン	その他都市部	農村部	地域計	プノンベン	その他都市部	農村部
世帯全体	2,817,637	250,597	255,982	2,311,058	721,119	71,327	65,839	583,953	197,762	19,164	16,333	162,265
世帯類型												
単独世帯	99,786	9,314	9,988	80,484	69,045	4,893	5,378	58,774	15,017	1,159	1,091	12,767
2人以上世帯計	2,717,851	241,283	245,994	2,230,574	652,074	66,434	60,461	525,179	182,745	18,005	15,242	149,498
父/母とその子だけの世帯	292,594	19,244	22,409	250,941	251,569	16,396	18,898	216,275	108,728	6,396	7,332	95,000
子<18歳のみの世帯	132,683	5,119	7,989	119,575	117,225	4,496	6,820	105,909	63,413	1,940	3,042	58,431
子≥18歳を含む世帯	159,911	14,125	14,420	131,366	134,344	11,900	12,078	110,366	45,315	4,456	4,290	36,569
その他の2人以上世帯	2,425,257	222,039	223,585	1,979,633	400,505	50,038	41,563	308,904	74,017	11,609	7,910	54,498
世帯主の婚姻状況												
未婚	91,684	19,965	12,597	59,122	56,002	11,191	6,324	38,487				
有配偶同居	2,123,159	172,554	189,506	1,761,099	154,994	12,695	15,452	126,847				
有配偶非同居	247,106	26,121	21,949	199,036	197,762	19,164	16,333	162,265				
死別	258,376	22,445	22,602	213,329	228,131	20,208	19,938	187,985				
離別	97,312	9,512	9,328	78,472	84,230	8,069	7,792	68,369				
世帯類型 世帯主の婚姻状況	世帯割合 (%)											
	カンボジア世帯全体				女性世帯主世帯全体				有配偶非同居女性世帯主世帯			
	地域計	プノンベン	その他都市部	農村部	地域計	プノンベン	その他都市部	農村部	地域計	プノンベン	その他都市部	農村部
世帯全体	100.0	8.9	9.1	82.0	100.0	9.9	9.1	81.0	100.0	9.7	8.3	82.1
世帯類型												
単独世帯	100.0	9.3	10.0	80.7	100.0	7.1	7.8	85.1	100.0	7.7	7.3	85.0
2人以上世帯計	100.0	8.9	9.1	82.1	100.0	10.2	9.3	80.5	100.0	9.9	8.3	81.8
父/母とその子だけの世帯	100.0	6.6	7.7	85.8	100.0	6.5	7.5	86.0	100.0	5.9	6.7	87.4
子<18歳のみの世帯	100.0	3.9	6.0	90.1	100.0	3.8	5.8	90.3	100.0	3.1	4.8	92.1
子≥18歳を含む世帯	100.0	8.8	9.0	82.1	100.0	8.9	9.0	82.2	100.0	9.8	9.5	80.7
その他の2人以上世帯	100.0	9.2	9.2	81.6	100.0	12.5	10.4	77.1	100.0	15.7	10.7	73.6
世帯主の婚姻状況												
未婚	100.0	21.8	13.7	64.5	100.0	20.0	11.3	68.7				
有配偶同居	100.0	8.1	8.9	82.9	100.0	8.2	10.0	81.8				
有配偶非同居	100.0	10.6	8.9	80.5	100.0	9.7	8.3	82.1				
死別	100.0	8.7	8.7	82.6	100.0	8.9	8.7	82.4				
離別	100.0	9.8	9.6	80.6	100.0	9.6	9.3	81.2				
世帯主の平均年齢 (歳)	43.9	44.8	44.4	43.8	47.4	46.8	47.4	47.5	46.5	49.2	49.1	46.0
平均世帯規模 (人)	4.68	5.01	4.83	4.63	3.90	4.55	4.24	3.78	3.80	4.63	4.20	3.66
生産年齢人口1人あたりの従属人口	0.62	0.36	0.50	0.68	0.61	0.33	0.49	0.68	0.71	0.35	0.51	0.81

General Population Census of Cambodia 2008 の普通世帯について筆者が再集計したもの

だろうか。これらの世帯、とりわけ農村部に暮らす有配偶非同居の女性世帯主世帯の経済基盤や、貧困リスクの程度などは検証してみる必要があるだろう。

6. カンボジアの有配偶者

女性世帯主のうちおよそ 19.7 万人は、「有配偶」ではあるが「配偶者と同居していない」。その数は、同じく男性世帯主の 4.9 万人のおよそ 4 倍に上っている (表 3)。

もともと「配偶者がある」ことは必ずしも「同一世帯内」にその配偶者が暮らしていることを意味しない。配偶者が家族を残して長期の出稼ぎに行き、出稼ぎ先で他の世帯の一員として暮らしていることも考えられる。夫が長期の出稼ぎに行っていれば、妻が女性世帯主として留守世帯を維持するということもあるだろう。

しかし、配偶者の同居していない男女世帯主の差はかなり大きい。背景には、表 7 に示した有配偶者数の男女差 (女性 277.3 万人、男性 252.6 万人) があると考えられる。女性有配偶人口を 100 として有配偶者の性比を計算してみると、カンボジアの 2008 年の値は 91.09 である。ちなみに日本の有配偶性比は 2005 年に 99.81、タイでは 2000 年に 94.86、ベトナムでは 1999 年に 97.97、インドでは 2001 年に 97.91、回教徒が多く一夫多妻の慣行がみられるタンザニアでは 2002 年に 85.59 であった⁽⁴⁾。

地域別に有配偶者の性比をみると、もっとも小さい PreiVeng の 86.40 から、もっとも大きい Mondul Kiri と Pailin の 97.72 まで、広い範囲に分布している (表 7)。2008 年の PreiVeng の有配偶性比はタンザニアに匹敵するほど小さく、Mondul Kiri や Pailin の値はベトナムやインドと同程度である。

有配偶者数に男女差が生じる要因としては、一般的に、宗教、軍隊、出稼ぎなどが考えられる。仏教徒がおよそ 97% を占めるカンボジア (Ministry of Planning, 2009) では宗教的な要因は排除可能と思われたが、数は少ないものの、複数の妻を持つ男性がいることも確認されている⁽⁵⁾。

2008 年現在のカンボジアには、1989 年に制定された婚姻家族法が生きていて、重婚は刑法に罰則規定がある。しかし、Ebihara (1974) や 1987 年までの調査内容に基づく Ross (1990) によれば、調査時点のカンボジアでは、妻の承認があれば、という限定付きながら、複数の妻を持つことが法的に容認されていた。Ross (1990) には、夫が複数の妻を持つことが容認されるのは複数の妻を扶養可能な場合であったこと、複数の妻を持つことは既に居る妻の抵抗があるので実際には稀であったこと、内縁関係をもつことは都市部を中心に珍しくないこと、一夫多妻の第 2 の妻は法的権利を有するが、内縁の妻に法的な権利は認められないことなどが書かれている。

FitzGerald (2007) は、2004 年の中間人口センサス結果で相当数の女性世帯主世帯が「有配偶」であるのは「家を離れて就業している夫が妻を見捨て、あるいは別世帯を持っているため」と述べている。

カンボジアの人口センサスの調査員向けの手引き (NIS, 2007) には、「有配偶」は、

「まだ夫婦として暮らし始めていなくても結婚の契約がある者」、「婚姻が地域住民に異議を唱えられていたとしても、当事者が結婚していると述べ、事実上安定した結びつきであると述べている者」も含んだ分類であることが記されている⁽⁶⁾。

本稿は2008年の人口センサスを分析してきたが、その10年前、1998年の人口センサスから有配偶性を計算すると94.14になった⁽⁷⁾。1998年から2008年までの10年の間に、「配偶者がいる」女性100人あたりの「配偶者がいる」男性は94人から91人に、3人も減少している。また、一夫多妻の慣行は次第に少なくなっていると記述している文献(LICADHO 2007)がある一方で、婚外パートナーの存在が増え、婚外子も増加していると記述している文献(Mony 2004)もみられる。

これらを考え合わせると、法で禁じられても一夫多妻の記憶は人々の中で払拭された訳でなく、経済発展に地域差が生じ、拡大し、職を求めて移動する人が増える中で、「配偶者がいる」が「配偶者と同居していない」女性が増えていると考えるのが妥当だろう。自己申告による「有配偶」の男女差は、事実上、婚外パートナーの存在の多いことを示していると思われる。

表7の右半分には、地域別・州別の世帯総数と女性世帯主世帯数、女性世帯主世帯割合を記載した。女性世帯主世帯割合はカンボジア全体では25.6%を占めているが、州別にみると、こちらもRatanak Kiriの11.8%からKoh Kongの31.6%まで広い範囲に分

表7 性別・地域別・州別の有配偶者数と有配偶性比および女性世帯主割合 カンボジア 2008年

地域 州	有配偶者数		有配偶性比 (男/女)	世帯総数	女性世帯主 世帯数	女性世帯主 割合 (%)
	女性	男性				
カンボジア全体	2,773,271	2,526,298	91.09	2,817,637	721,119	25.6
地域						
プノンベン	265,440	240,043	90.43	250,597	71,327	28.5
その他の都市部	255,445	234,612	91.84	255,982	65,839	25.7
農村部	2,252,386	2,051,643	91.09	2,311,058	583,953	25.3
州						
Banteay Meanchey	143,570	130,983	91.23	144,658	32,480	22.5
Battambang	202,564	187,946	92.78	209,702	52,904	25.2
Kampong Cham	363,456	330,644	90.97	368,114	93,052	25.3
Kampong Chhnang	92,071	84,612	91.90	100,801	23,286	23.1
Kampong Speu	147,085	133,502	90.77	149,270	35,745	23.9
Kampong Thom	129,638	117,286	90.47	133,878	37,802	28.2
Kampot	124,581	112,946	90.66	129,646	30,504	23.5
Kandal	257,792	236,726	91.83	255,029	57,824	22.7
Koh Kong	24,063	22,722	94.43	24,166	7,645	31.6
Kratie	64,989	61,925	95.29	65,323	10,251	15.7
Mondul Kiri	11,849	11,579	97.72	12,270	1,779	14.5
Phnom Penh	265,440	240,043	90.43	250,597	71,327	28.5
Preah Vihear	33,806	32,482	96.08	33,115	4,794	14.5
Prey Veng	214,606	185,429	86.40	226,312	79,027	34.9
Pursat	77,782	70,919	91.18	83,412	20,306	24.3
Ratanak Kiri	30,940	29,572	95.58	27,485	3,233	11.8
Siem Reap	177,642	162,889	91.70	179,754	41,841	23.3
Preah Sihanouk	43,704	41,243	94.37	44,656	11,589	26.0
Stung Treng	21,755	20,696	95.13	20,922	3,331	15.9
Svay Rieng	108,284	95,068	87.80	114,758	34,988	30.5
Takeo	178,362	160,492	89.98	183,742	56,058	30.5
Otdar Meanchey	38,169	36,213	94.88	38,398	7,525	19.6
Kep	6,989	6,569	93.99	7,193	1,417	19.7
Pailin	14,134	13,812	97.72	14,436	2,411	16.7

General Population Census of Cambodia の普通世帯について筆者が再集計したもの

布している。有配偶性比の大きいところは概して女性世帯主割合が低く (Ratana Kiri、Mondul Kiri など)、有配偶性比の小さいところでは女性世帯主割合が高い (Prey Veng、Svay Rien など)。試みに有配偶性比と女性世帯主割合の相関係数を求めると、 -0.81 という高い値が得られた。

カンボジアに女性世帯主が多い背景には、婚姻時の妻方同居が影響している可能性があることは既述したとおりだが、それに加えて、非世帯主を含む男女の有配偶者数の大きな不均衡が影響していることは確かだろう。有配偶世帯主の男女差の背景には婚外パートナーの存在があると考えられる。

7. おわりに

悉皆調査である人口センサスデータを使用して、有配偶女性世帯主世帯を中心にカンボジアの世帯をみてきた。2008年現在、カンボジアには4世帯に1世帯の割合で女性世帯主世帯があった。これは2010年現在の日本の女性世帯主割合とほぼ同じだが、日本では女性世帯主世帯に占める有配偶割合は9%弱なのにたいして、カンボジアでは半分に迫る48.9%と有配偶女性世帯主世帯が多かった。背景には、カンボジアの妻方同居の慣行があると考えられる。妻方同居の慣行の下で村外出身男性と結婚すると、若夫婦の生活を支える経済基盤を妻側に依存して新しい生活がはじまる。こうして「有配偶」の女性世帯主が生じた場合、夫と死別したり離別したりしても、住まいや農地などの経済基盤は妻の側に残ることになる。世界銀行や政府の、消費から金銭的に貧困を捉えると女性世帯主世帯は男性世帯主世帯よりも貧困だとはいえないという報告は、有配偶女性世帯主世帯の割合が多いことによって、ある程度説明がつくかも知れない。

一方、有配偶女性世帯主世帯の半数を超える世帯には、配偶者が同居していなかった。配偶者が同居していない世帯の半数以上は「父/母とその子のみ」の世帯に暮らしていて、3世帯に1世帯は「子が18歳未満のみ」であった。「幼い子どものいる寡婦」の貧困リスクを指摘した先行研究はあるが、「有配偶非同居」の母子世帯について考察したものはない。「有配偶非同居」の母子世帯と貧困との関連は、今後検討する必要がある。「有配偶非同居」の女性世帯主世帯は「有配偶非同居」の男性世帯主世帯よりも15万世帯も多く、この不均衡の大きさから、これらの世帯が安定した生活基盤を持っていない可能性が否定できないからである。

女性世帯主と男性世帯主の「有配偶非同居」世帯数の不均衡の背景には、非世帯主を含む男女の有配偶者数の大きな不均衡がある。有配偶者数の男女差は1998年から2008年の間に拡大し、有配偶女性100人あたりの有配偶男性の数は94人から91人に減少した。有配偶者数の男女差の相当部分は複数の婚外パートナーを持っている男性の存在によって説明可能と考えるのが妥当だろう。法的に一夫多妻が容認されていた時代は、夫が第2の妻を持つには、それまでの世帯と共に第2の妻も扶養可能なことが前提とされていた (Ross 1990)。しかし、法的に重婚が禁止されている現在、婚外パートナーとなった女性

の経済基盤は寡婦と同等、もしくは、さらに脆弱であろう。また、婚外パートナーをもった男性の妻の世帯の家計も不安定になっている可能性がある。

カンボジア人口の8割は農村部に暮らしている。農業は稲作が主体で一毛作である。都市部との格差が拡大する中で、農閑期の出稼ぎは増えているだろう。出稼ぎが婚外パートナーとの暮らしを増加させている可能性は否定できない。意識改革の取り組みと同時に、出稼ぎしなくても暮らせるような地域開発は必須である。

<注>

- (1) “2008 Census Redatam+SP” 個票データと集計用ソフトウェアが入ったCDで、カンボジア統計局データユーザーサービスセンターで入手できる。
- (2) 人口センサスの地域区分は都市部と農村部の2つだけだが、近年、都市部の中でもプノンベンが発展が著しく、地域間格差を拡大していることから、都市部を「プノンベン」と「その他都市部」に分割した。
- (3) 総務省：平成22年国勢調査 人口等基本集計・表番号1310より筆者計算。
- (4) カンボジアの有配偶性比は2008年人口センサスから、日本については総務省の2005年国勢調査集計表から、タイとベトナムは国連統計部のデータベースから、インドはインド統計局ホームページ掲載の統計表から、タンザニアについてはタンザニア統計局のAnalytical Reportから筆者が計算した。
- (5) 筆者の集計によれば、少なくとも、同一世帯内で複数の配偶者が暮らしている世帯がカンボジア全土でおおよそ2600世帯あり、すべて世帯主は男性である。
- (6) 調査票で「有配偶」の英語表記はMarried (ie. Currently Married)。
- (7) カンボジア統計局のWebサイトから<http://celade.cepal.org/khmnis/census/khm1998/>に入り、パラメータ入力によって集計した婚姻状況から計算。

参考文献

- Asian Development Bank (2001), *Participatory Poverty Assessment: Cambodia*, ADB
- Ballard, Brett M. and Ingrid FitzGerald (2007), “Are All Rural Female-Headed Household Poor?”, *Cambodia Development Review*, 11(4), 5-12
- Cambodian League for the Promotion and Defense of Human Rights (LICADHO) (2004), *The Situation of Women in Cambodia*, Cambodian League for the Promotion and Defense of Human Rights, Phnom Penh, Cambodia
- Ebihara, May (1974), Khmer Village Women in Cambodia, In *Many Sisters: Women in Cross-Cultural Perspective*. C. Matthiasson, ed. New York: Free Press, pp. 305-347.
- FitzGerald, Ingrid and So Sovannarith (2007), *Moving Out of Poverty? Trends in community well-being and household mobility in nine Cambodian villages*, Cambodia Development Resource Institute (CDRI), Phnom Penh, Cambodia
- FitzGerald, Ingrid (2007), “Gender Dimensions of Poverty” in Ballard, B. [ed], *We are Living with Worry All the Time: Participatory Poverty Assessment of the Tonle Sap*, Chapter 5 (pp109-149), Cambodia Development Resource Institute (CDRI), Phnom Penh, Cambodia

- Ministry of Planning (1999), *Poverty Profile of Cambodia*, Ministry of Planning, Cambodia
- (2004), *Poverty Profile of Cambodia*, Ministry of Planning, Cambodia
 - (2009), *General Population Census of Cambodia 2008 National Report on the Final Census Results*, Ministry of Planning, Cambodia
- Mony, Keo (2004), *Cambodian Marriage*, EthnoMed (University of Washington, Harborview Medical Center's ethnic medicine website <http://ethnomed.org/>)
- National Institute of Statistics (NIS) (2007), *General Population Census of Cambodia, 2008 Enumerator's Manual*, NIS, Ministry of Planning, Cambodia
- (2010), *General Population Census of Cambodia 2008 Analysis of the Census Results Report 8 Economic Activity and Employment*, NIS, Ministry of Planning, Cambodia
- Ross, Russell R. ed. (1990), *Cambodia: A Country Study*, Federal Research division of the Library of Congress, Research Completed December 1987
- World Bank (2006), *Cambodia Halving Poverty by 2015? Poverty Assessment 2006*, The World Bank, Washington D.C.
- Understanding Children's Work (UCW) Project (2006), *Children's work in Cambodia: a challenge for growth and poverty reduction*, UCW Project, Rome, Italy
- UNIFEM, WB, ADB, UNDP and DFID/UK (2004), *A Fair Share for Women: Cambodia Gender Assessment*, UNIFEM, WB, ADB, UNDP, DFID/UK. Phnom Penh
- 天川直子 (2001), 「土地所有の制度と構造 —ポルポト政権崩壊後の再構築過程—」天川直子編『カンボジアの復興・開発』日本貿易振興会アジア経済研究所 研究双書 518, pp.213-274
- 絵所秀紀・山崎幸治編 (1998), 『開発と貧困 —貧困の経済分析に向けて』, 日本貿易振興会 アジア経済研究所 研究双書 487
- 佐藤奈穂 (2009), 「カンボジア農村における子の世帯間移動の互助機能」, 『東南アジア研究』, 47(2) pp.180-209
- 佐藤奈穂 (2005), 「女性世帯主世帯の世帯構成と就業選択 —カンボジア・シエムリアップ州タートック村を事例として—」, 『アジア経済』, 46(5) pp.19-43
- デルヴェール, ジャン著, 石澤良昭・中島節子訳 (1996), 『カンボジア』, 白水社
- 高橋美和 (2001), 「カンボジア稲作農家における家族・親族の構造と再建 —タケオ州の事例—」天川直子編『カンボジアの復興・開発』日本貿易振興会アジア経済研究所 研究双書 518, pp.213-274
- 矢倉研二郎 (2008), 『カンボジア農村の貧困と格差拡大』阪南大学叢書 85, 昭和堂